

合理的配慮検討シート

小学校 年 組 番 氏名：



1. 子どもの困難さ・具体的な場面

- 物品の管理ができない。
 - ・ よく物をなくしてしまう。
 - ・ 机の周りに物が散乱している。
 - ・ 指示が通りにくい。
 - ・ ぼーっとしている。

2. 隠れた要因

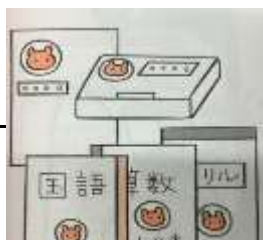
- 物の量が多くなると、管理が難しくなる。
 - ・ いまするべきことを忘れてしまう。【実行機能・作業記憶】
 - ・ 片付ける場所や手順が分からない。【実行機能・計画立案】
 - ・ 不器用で、うまく片付けられない。【運動機能・巧緻機能】
 - ・ 空間がうまくとらえられない。【高次脳機能・空間認知】

3. 視点

- ・ 不注意によって別のことに気をとられ、必要な情報に焦点が当たらず、いまするべきことを忘れてしまう。
- ・ 計画立案が弱く、片付ける場所や手順が分からない。
- ・ 手先の細かい動作が苦手なために、道具を揃えて片付けることが難しい。プリントがたためずにぐちゃぐちゃになってしまう。
- ・ 空間がうまくとらえられないことで、物の上に物を置いたり、物が入りそうもない隙間に物をつっ込んだりして、その結果、机の上が散らかったり物が落ちたりする場合もある。
- ・ 周囲からは「だらしない」などと思われがちだが、わざとそうしているわけではないことを理解する。
- ・ 注意を繰り返されたり、叱責されることで、「自分はダメな人間だ」と自分を責めてしまうことがある。

4. 考えられる合理的配慮

- 持ち物に手がかりをつける。
 - ・ 持ち物には、子どもの名前や本人が気に入っているシンボルマークなどをつける。手がかりとなり、持ち物を認識しやすくなる。
- 持ち物の量を減らす。
 - ・ 持ち物が多いと、物が散乱・紛失しやすくなる。
 - ・ 持ち物は必要最低限の量にして、机の上も、そのときに使う教科書・ノートだけを出すようにする。
- 持ち物を移動させない。
 - ・ 家と学校で持ち物を行き来させなくてもすむように、学校に置いておけるものは置いておくようにする。
- 落とし物入れをつくる。
 - ・ 教室に落とし物入れを用意して、全員で落とし物をそこに入れるようにする。帰りの会などで落とし物の確認をして、持ち物管理をサポートする。



02E02



語とつづり